

業務調査報告書⇒下関市議会（星出恒夫）

●調査施設：佐賀大学医学部附属病院

- ・日時：令和元年12月26日（木） 14時～15時30分
- ・場所：佐賀大学医学部附属病院 ロボットリハ室
- ・対応者：佐賀大学医学部附属病院 医学博士 浅見豊子
理学療法士 北島昌輝

・内容

3年前、国の補助金で導入された下関市の介護ロボットの有効活用について

- ・現在使用されていない介護ロボットがあったとしても、メンテナンスをしているかどうかは課題である。突然使用開始ということにはならないので、改めてメンテナンスを行う必要がある。交流の場で、自由に使ってくださいというのであれば良いが、介護ロボットを使用して、成果を出そうとすると、メンテナンスをした機器でないと難しい。
- ・現在、新しい機器が開発されているので、メーカー側ともよく協議する必要がある。経営者サイドと協議した方が良い。

佐賀大学での成果と基本

- ・介護ロボット（歩行支援）により、歩けない人が歩けるようになるわけではない。歩ける人がよりスムーズに歩けるようになる。
- ・脳卒中や脳梗塞、認知症により歩行が困難になった人に週3回、20回の訓練をすると、歩行速度が1.5倍となりスムーズに歩ける感覚となった。大学で20回と目安を決めている。 時速3.5 km/h⇒4.4 km/h
- ・介護ロボットだけでうまくいくわけではなく、使いこなすことが出来なければ駄目であり、継続的に指導者が必要である。
- ・70歳前後の要支援の高齢者に訓練をすると効果が出てくるが、80才以上になると、効果が出ない。⇒本人のやる気の問題もある。

その他

- ・現在は医療ロボットの開発が進んでいる。
- ・ロボットを使った訓練は、患者のやる気を引き出すことにもつながりやすく、機能回復の効果も従来のリハビリと比べて一般に高いとされる。ロボットリハビリの専門外来も登場している。
- ・下関市の歴史的資源を利用した医療ツーリズムを企画したら、交流人口の拡大につながるのではないかと。

2019.7
No. 43

佐賀大学病院 ニュース

患者・医療人を選ばれる病院を目指して *News & View*

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

佐賀大学医学部附属病院は県の災害拠点病院として、万一の災害時には怪我をした患者さんの治療のみならず、避難所等で生活される災害弱者の支援を行う必要があります。DMAT（災害派遣医療チーム）を複数有する当施設は、過去の災害において様々な被災地にDMATを派遣してきた経験を持っています。それらの経験の中で感じることは、災害弱者の状況や場所の把握の難しさ、被災に伴って持病が悪化する二次的健康被害への対策の難しさです。これらの問題を解決する一つの方法として、あらかじめ患者さんから健康情報を提供して頂き、佐賀大学医学部附属病院施設内に設置した災害情報支援センター（仮称）で管理、災害時にはその情報を最大限に活用するという構想です。また、その入力デバイスとしてスマートフォンを利用することで、GPS機能（衛星利

用測位システム）による患者さんの避難場所の特定や、被災による薬剤紛失情報も受けることが出来ます。第1弾は糖尿病患者さん向けの「糖尿病患者支援アプリ」で、内服薬の情報をスマートフォンのカメラを利用しQRコードで簡単に登録する事が出来ます。災害時には、インスリンなどの休薬が危険な薬剤の紛失情報をいち早く把握し、GPSを活用した早期の援助につなげる事が出来ます。現在開発を進めている難病患者さん向けのアプリでは、人工呼吸器や電力などのライフライン情報と、避難に支援が必要かどうかなどを確認する事で、地域における効率的な共助の実践を目指しています。これらの活動を継続する事で、佐賀県にお住まいの住民に安心安全を提供出来るよう、今後とも努力して参りたいと考えております。

(文責：助教 三池 徹)

1型および2型糖尿病の発症率低下 を目的としたエンテロウイルス ワクチン開発研究



発熱、咽頭痛、腹痛、下痢など、いわゆるインフルエンザ様症状から1型糖尿病を発症することがあることは良く知られていて、ポリオと同じピコルナウイルスに属する腸管ウイルス（エンテロウイルス：6種のコクサッキーB群ウイルス）がその主要な原因であると考えられています。我々は、世界で初めてマウスとヒトに共通するウイルス糖尿病感受性遺伝子を同定し、1型糖尿病（オッズ比2.4）のみならず2型糖尿病（オッズ比2.0）のリスクである

ことを報告しました（Nat Commun 2015, EBioMedicine 2015, 2017）。そこでウイルス糖尿病に高い感受性を有するとと相似のモデルマウスを作成することにより、糖尿病を誘発するウイルスを高い感度で同定する研究を行っています（EBioMedicine 2018, J Med Virol 2019）。将来、そのウイルスに対するワクチンを開発できれば、1型糖尿病および2型糖尿病の発症率低下に繋がる事が期待できます。

災害時患者支援アプリの開発



2019.12
No. 44



佐賀大学病院 ニュース

News & View

患者・医療人を選ばれる病院を目指して

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

創薬科学講座の紹介

創薬科学講座は大原薬品工業株式会社の寄附講座として平成29年4月に開講されました。本講座のミッションは、DNAのメチル化を標的にした新しい薬を創ることです。DNAはアデニン(A)、チミン(T)、グアニン(G)、シトシン(C)という4種類の塩基が鎖状に繋がった分子で、生命の“設計図”として生物の遺伝情報を保存しております。このDNAの塩基にメチル基が付加されることをDNAのメチル化と呼びます。現在までに、がんを含め様々な病気を



教授

でこのメチル化の異常が私どもの研究室では、メチル除去して、正常な状態に居おります。現在は、シャトーやマウスに対する薬の、が、患者さんに新しい薬、うにスタッフ一同、日夜研、ます。皆さま、創薬科学、お願いいたします。

病院長あいさつ

平成31年4月から、2期目の病院長を務めることになりました。

日頃より佐賀大学医学部附属病院をご支援いただき感謝申し上げます。『患者・医療人を選ばれる病院を目指して』という病院理念と、「地域医療への貢献」、「良き医療人の養成」、「高度医療技術の開発研究」という3つの病院目標を常に念頭に置いて、職員全員が一丸となって日々の診療に励んでおります。

私どもは、佐賀県における高度急性期医療の最後の砦として、県民の皆様が心筋梗塞、脳卒中、各種悪性腫瘍などの命に関わる病気に罹患してしまった際に、全力を尽くして診療し、その支えとなることをお約束し、そのために、医療技術の向上を目指して切磋琢磨いたしております。また、これを可能とするための最新の設備を整備することにも尽力いたしております。

また、「良き医療人の養成」は本院の病院目標の一つであり、専門医育成は本院の最大の使命の一つです。佐賀県内の多くの病院と協体制



病院長

を密接に組み、専門医制度過度な負担がかからないとれた医師をしつかりと育、材育成こそが佐賀県の医療民の健康を守る最大の決

さらに、医療経済も医療決して無視できません。医

は、経営状況が健全である

す。限られた医療資源を右

院で治療することが望まれ

必要な患者さんをしつ、

大学病院の運営を健全に行

最後になりますが、大学

も重要なことは、患者さん

の暖かいふれあいと思ひ

ります。佐賀大学医学部

いただいた患者さんに心

るよう、職員一同一丸と

ます。